

経営比較分析表（令和4年度決算）

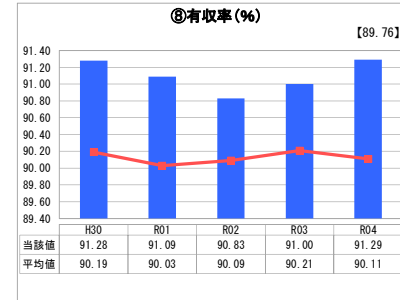
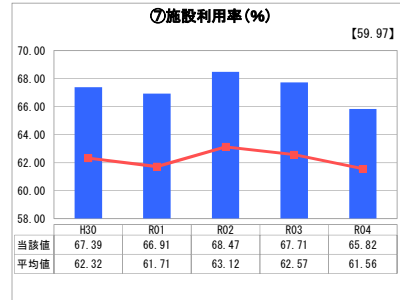
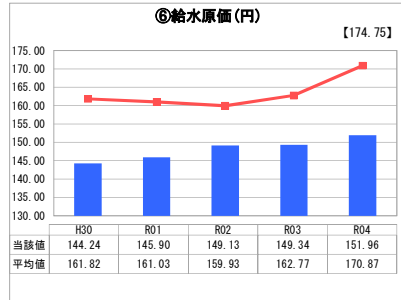
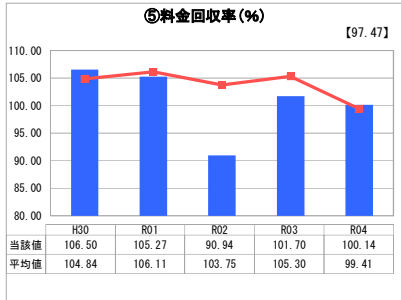
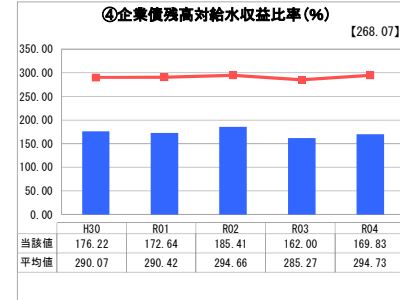
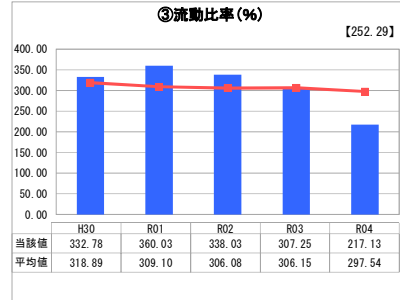
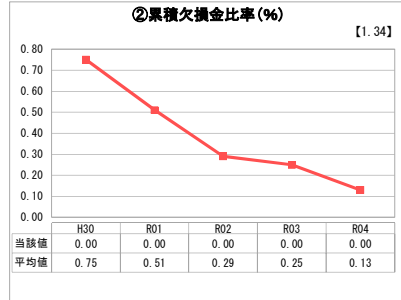
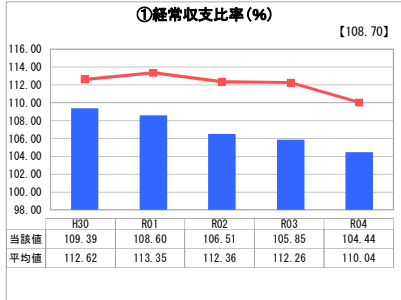
埼玉県 春日部市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家産料金(円)	
-	71.09	99.97	2,684	

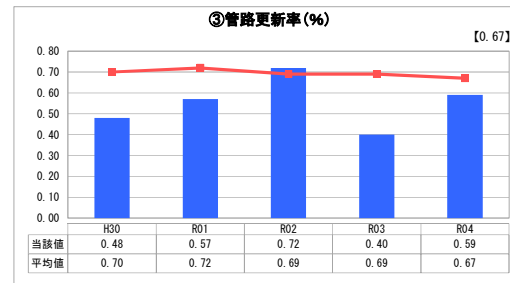
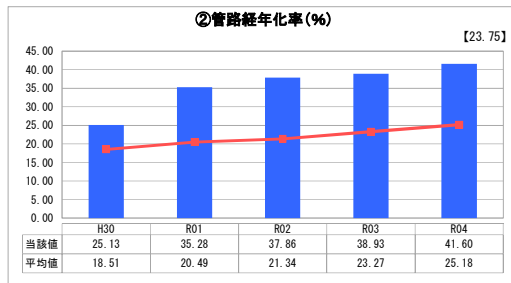
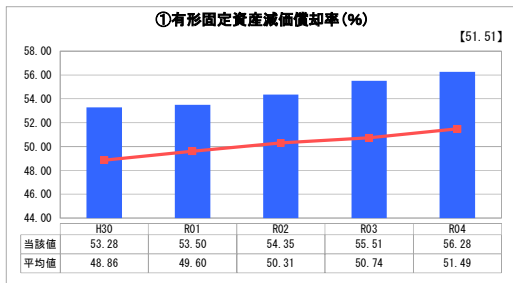
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
231,726	66.00	3,511.00
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
231,233	66.00	3,503.53

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%を上回っているが、下降してきており、今後増加する老朽化施設の更新財源の確保が課題である。
 ②流動比率は、未払金の増加が主な要因で大きく減少したが、100%を上回っており、短期的な債務に対する支払能力に問題はない。
 ③企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値を大きく下回っているが、将来世代の負担が過大とならないよう、企業債残高を適正に管理していく必要がある。
 ④料金回収率は、100%程度まで下降してきており、一層の費用の抑制、収益の確保が課題である。
 ⑤給水原価は、類似団体平均値を下回っているが、修繕費や委託費が増加したことなどから前年より上昇しており、今後も上昇傾向が見込まれる。
 ⑥施設利用率は、下降傾向となっている。今後は人口減少や節水型社会への移行等による給水量の減少が見込まれることから、将来の水需要を考慮しながら効率的な施設運用に努める必要がある。
 ⑦有収率は、類似団体平均値を上回っているが、引き続き漏水調査や老朽管の更新などの漏水対策を行い、有収率の向上に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は50%を超え上昇しており、法定耐用年数に近い資産が多いことを示している。
 ②管路経年率は類似団体平均値を上回っており、法定耐用年数を超えた老朽管が多いことを示している。更に、今後は高度経済成長期に布設した多くの配水管が耐用年数を迎えることから、管路更新ペースの向上を図る必要がある。
 ③管路更新率は工事発注時期標準化の取り組みの開始に伴い一時的に減少していた前年より上昇したものの、類似団体平均値を下回っている状況である。今後も管路更新率の向上に向け、計画的な管路更新を行っていく必要がある。

全体総括

新型コロナウイルス感染症の影響はほぼ見られなくなったが、今後も水需要の低下や施設の老朽化等、経営状況は厳しさを増していく見込みとなっている。
 また、計画的な施設更新を行っていくため、概算発注方式や設計施工一括発注方式を活用するなどの工夫を行っているものの、人件費や物価上昇などによる工事請負費等の増加が経営を圧迫している。
 今後は、料金改定を含めた財源確保の検討、一層の費用の抑制を図っていく必要がある。

経営比較分析表（令和4年度決算）

埼玉県春日部市 春日部市立医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	24	対象	I未訓ガ	救急が感輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
231,726	33,600	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
361	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	2	363
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
350	-	350

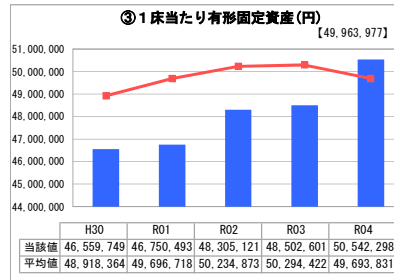
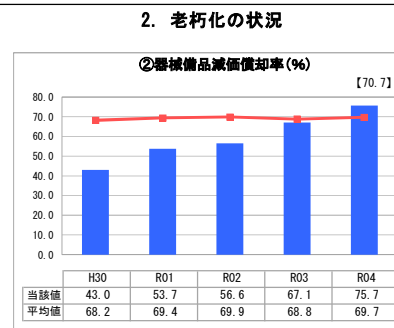
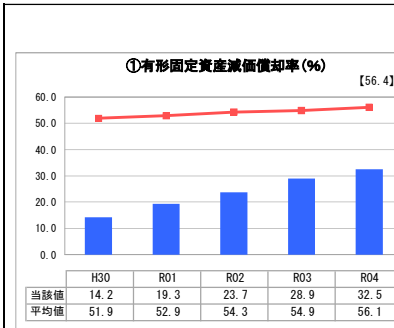
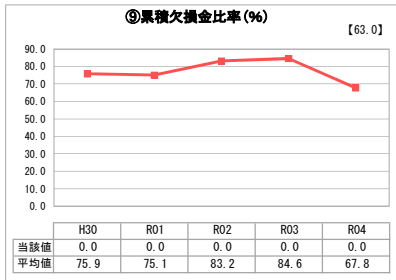
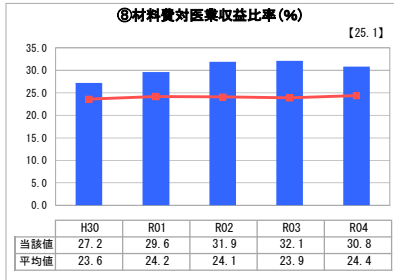
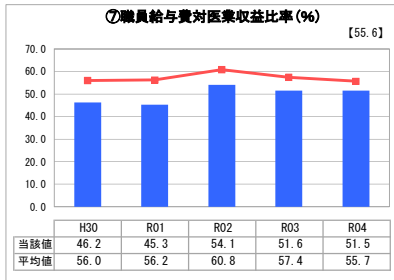
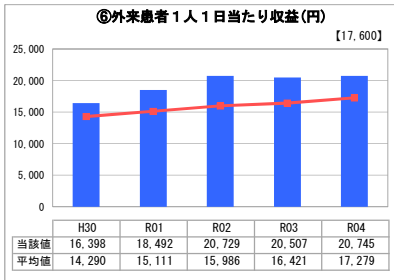
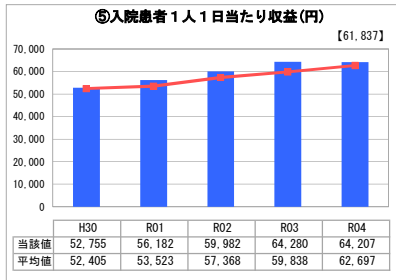
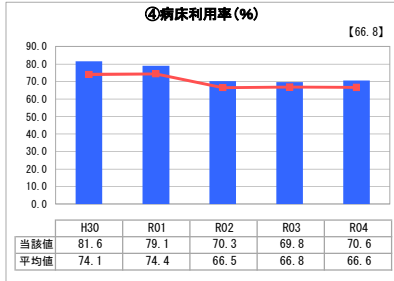
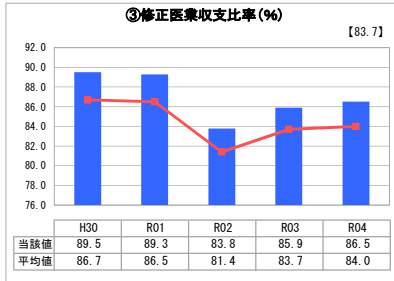
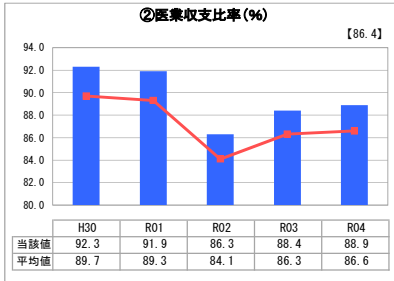
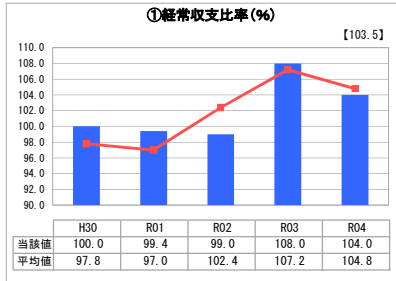
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の形態・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

I 地域において担っている役割

地域医療連携体制を支える基幹病院として、地域で不足する専門的な医療を提供している。また、地域がん診療連携拠点病院として、先進的な設備や医療機器を導入し、患者受け入れ態勢の強化を図るとともに、小児、周産期、救急、災害時医療などにおける地域拠点病院としての役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、入院・外来収益とも令和3年度を上回ったものの、新型コロナウイルスに係る国・県補助金の減や、エネルギー価格の高騰に伴う光熱費の増などにより、令和3年度と比較して悪化した。
 ② 医業収支比率、③ 修正医業収支比率は入院・外来収益とも令和3年度を上回ったことなどにより改善した。
 ④ 病床利用率は増となり70%を上回った。なお、新型コロナウイルス病床確保に伴う病床を離れた病床利用率は3%となっている。
 ⑤ 入院患者1人1日当たり収益は、ハイケアユニット入院医療管理料などの新規算定の算定開始や手術件数が増加した一方、抗がん剤治療件数の減や平均在院日数が長くなったことにより微減となった。
 ⑥ 外来患者1人1日当たり収益は、抗がん剤治療件数の増などにより増加した。
 ⑦ 職員給与費対医業収益比率は、職員給与費が増加したものの、入院・外来収益も増加したため、横ばいとなった。
 ⑧ 材料費対医業収益比率は、入院・外来収益が増となった一方で薬品費、診療材料費が減となったため改善したが類似病院平均値を上回った状態が続いている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、病院建物等の減価償却の進捗により上昇した。新病院建設から7年が経過していることから、今後の大規模修繕に備える必要がある。このため、令和4年度決算において、建設改良積立金5億円を積み立てた。
 ② 器械備品減価償却率は、令和2年度に購入した高額医療器械の減価償却の進捗により上昇した。
 ③ 1床当たり有形固定資産はリース資産（医療情報システム）の取得により上昇した。

全体総括

令和4年度の経営状況は、入院・外来収益とも令和3年度を上回ったものの、新型コロナウイルスに係る国・県補助金の減や、エネルギー価格の高騰に伴う光熱費の増などにより、令和3年度と比較して収支は悪化した。
 今後は新型コロナウイルスに係る補助金は見込めないことから、材料費や経費の削減を図りながら、病診連携・病病連携を進め、手術件数、紹介率および逆紹介率の向上を図るとともに、救急医療体制の強化や新規入院患者を増やす取り組みを実施し、入院・外来収益を確保することにより安定した持続可能な経営基盤を確立していく。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和4年度決算）

埼玉県 春日部市

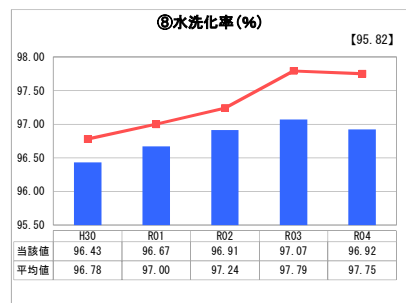
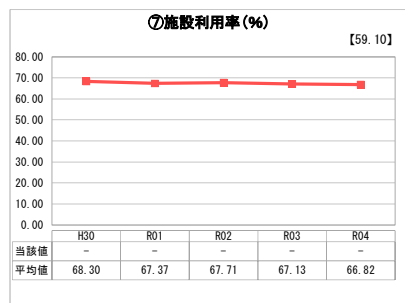
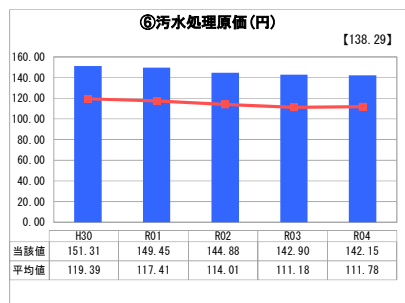
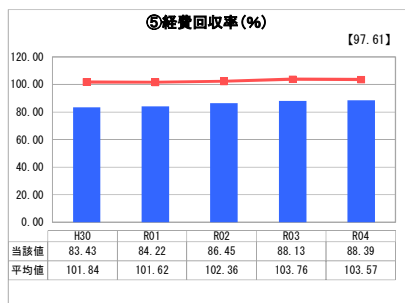
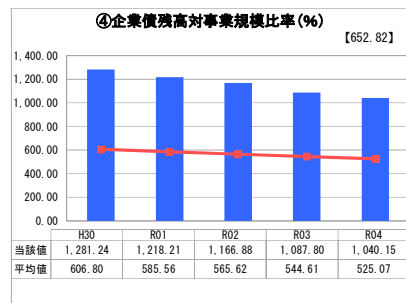
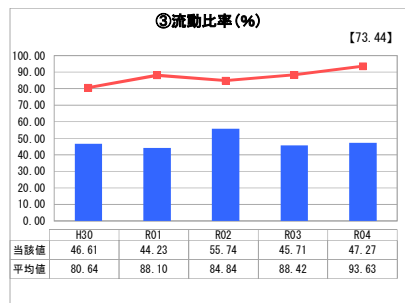
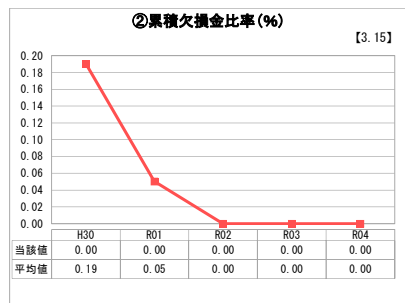
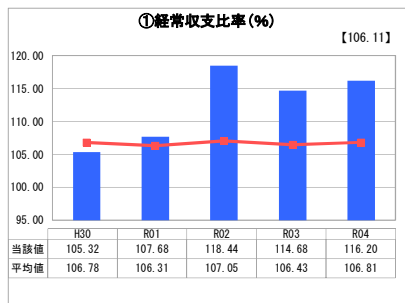
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料(円)
-	48.70	90.06	89.60	2,376

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
231,726	66.00	3,511.00
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
208,308	22.66	9,192.76

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、累積欠損金比率
 経常収支比率は100%を上回っているが、使用料収入の不足分を一般会計補助金で補てんしている状況にあり、補助金繰入額の増減に伴い、経常収支比率が増減している。引き続き、水洗化率の向上による使用料収入の増加及び不明水解消による維持管理費用を削減する必要がある。

③ 今後は企業債残高の減少に伴い流動比率も増加していくものと考えられるが、当面の間は100%を下回ることが想定されるため、短期的な債務に対する支払いには留意する必要がある。

④ 企業債残高対事業規模比率が平均を上回っているのは、初期投資の企業債や資本費平準化債の借入が債務残高に影響しているためである。今後においても企業債残高に注視し適正に管理をしていく必要がある。

⑤ ⑥ 経費回収率、汚水処理原価
 経費回収率及び汚水処理原価においては、横ばい傾向の状況にあり、今後においても引き続き、不明水の解消等有収水量の増加を図るとともに使用料の適正化について検討していく必要がある。

⑧ 水洗化率は、類似団体平均を若干下回っている。

2. 老朽化の状況について

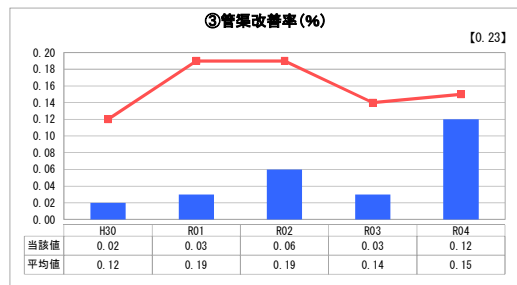
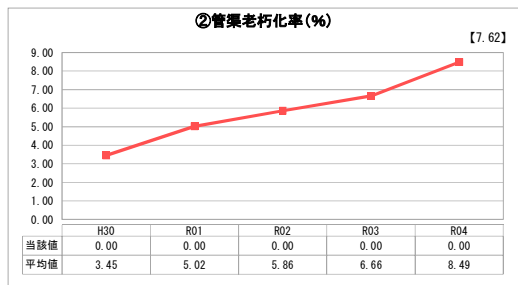
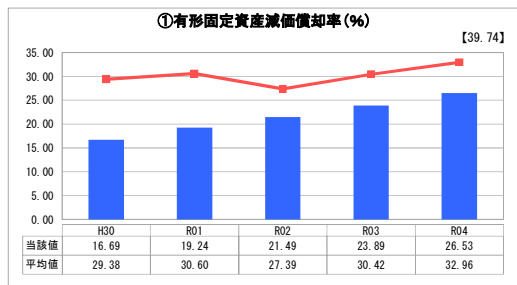
① 有形固定資産減価償却率
 平均値と比較して低い値であり、法定耐用年数に近い資産は比較的少ないといえる。

② 管渠老朽化率
 当市の値は「0」であり、法定耐用年数を超過した管渠はない。

③ 管渠改善率
 経年劣化による改善の必要な管渠が増加傾向といえる。

老朽化の程度は低いが、将来の更新時期に備えてストックマネジメント計画に基づいた計画的・効率的な維持管理に取組んで行く必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

経営状況が厳しさを増す中、策定した経営戦略に基づき、経営基盤の強化を図り、持続可能な経営が求められる。これに当たり、水洗化率の向上による使用料収入の増加および不明水解消による汚水処理費用の削減に取り組む必要がある。また、下水道管渠や中継ポンプ場施設の老朽化及び震災などの災害に対応するため、計画的・合理的な維持管理・更新を実施していく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。